



ホーム > +Journal > 連載 > 連載詳細 >

# やはり、「百聞は一見に如かず」

視点 2018/07/27 09:00 ツイート いいね! シェア 0 後で読む

週刊BCN 2018年07月23日vol.1736掲載

5月の連休を使って、中国のデータセンター（DC）視察ツアーを行った。中国のDC産業は、ここ5年ほどは30~40%の成長を続けており、現在の市場規模は、米国の約3分の1、日本の3倍の規模と、著しい成長を遂げた。2年前の視察ツアーは、香港に隣接した経済特区である深セン地区への訪問であったが、その時と比較してみると、その規模と技術面の成長は驚くべきものであった。

近年、仮想通貨の普及や人工知能・ビッグデータを用いた新しいサービスやビジネスの起動・拡大・普及が、いずれも日本とは比較にならないスピード感をもって進みつつあることが、街並みを見てもすぐに分かる。

例えば、2年前では本格化していなかった「シェアード自転車」は、ほぼ中国の主要都市で普通のサービスとして展開されている。また、物理貨幣の利用頻度は極端に減少し、アリババやテンセントなどの非銀行系のサービスプロバイダが提供する仮想通貨が一般生活に浸透し、街のいたるところで使われているのだ。

これらのサービスは2年前にはまだ導入が始まったばかりであったが、本格展開となったことから、DCの主要な利用者は、大きく様変わりしている。いまのDC産業の成長に寄与している大部分は、これらデジタルネイティブなサービスを提供する事業者となっていることを、今回、確認することができた。

北京近郊でDC事業を展開するStackData社は、わずか9か月で200MWクラスの超大規模なDCの設計・構築・竣工に成功している。

また、今回の視察ツアーでは成都を訪問。中国の不動産王が初めて自力で設計・構築した万達グループ（Dalian Wanda Group）の旗艦DCを訪れた。このDCは、中国でほぼ唯一のTier 4のDCで、設計から竣工までを約9か月で完了（その後、事業ライセンスの認可などに約半年）したとのことだ。

市場および技術状況の変化・進化の激しい最先端のインターネット業界。そこで躍進するDC事業者は、政府と密接に連携しながら対応していることがよく分かる。日本では、ほぼ不可能な速度での設計・施工である。

「百聞は一見に如かず」。実際の状況を現地に赴き実感・体感することの大切さ・重要性を再認識した。

東京大学大学院情報理工学系研究科教授 江崎 浩

## 略歴

江崎 浩（えさき ひろし）

1963年生まれ、福岡県出身。87年、九州大学工学研究科電子工学専攻修士課程修了。同年4月、東芝に入社し、ATMネットワーク制御技術の研究に従事。98年10月、東京大学大型計算機センター助教授、2005年4月より現職。WIDEプロジェクト代表。東大グリーンICTプロジェクト代表、MPLS JAPAN代表、IPv6普及・高度化推進協議会専務理事、JPNIC副理事長などを務める。



## 賢い人と愚かな人の違い

なぜ、日本人は一生お金に苦しめられるのか？日本人の知らないお金の真実。

palmbeach.jp



## アクセスの多い記事

2018/04/13 18:10

外から見た富士通、内から見た富士通 中山 隆彦 席工バンジェリストが入社8か月を語る

2008/08/25 18:23

プロシップ 代表取締役会長 鈴木勝喜

2018/07/19 09:00

結局、AzureとAWSの差は縮まっているのか？日本マイクロソフトのパートナーエコシステム改革から1年

2018/07/19 13:00

茨城県つくば市のRPA導入成果 業務効率化の有効性を検証

2018/07/26 12:00

「OpenStack Days Tokyo 2018」の見どころを聞く あらためて「クラウドネイティブ」を語る機会に

[PR]売れてる理由がそこにある - BCN RETAIL

[PR] IT関連セミナー・イベント情報

[PR] 実売データでわかる売れ筋ランキング